

政府・東京電力中長期対策会議 運営会議 第13回会合 議事概要

日 時： 平成24年12月25日(火)10:00～11:35

場 所： 東京電力 本店 本館1101/1102会議室

出席者：【共同議長】

相澤副社長(東電)

【委員】

中西委員(経産省)、山下委員(東電)、大竹委員(文科省)、岡村委員(東芝)、丸委員(日立)

【アドバイザー】

金山理事(産総研)、横山常務(電中研)、浅間教授(東大)、井上顧問(電中研)

議 事：

1. 冒頭挨拶

(中西委員)

- ・ 現場の皆さまの献身的なご尽力により、福島第一原子力発電所の廃止措置等が進捗していることにお礼申し上げたい。現在も、滞留水の処理や労働環境に関する問題など様々な課題に対応している。引き続き皆さまのサポートを頂きたい。明日以降、中長期対策会議関係の体制も変更になるが、自民党も福島県の復興を最重要課題の一つとして掲げている。廃止措置等に向けた取り組みの加速にますます関心が高まってくることから、引き続き関係者のご協力をお願いしたい。

2. 第12回会合議事概要について

- ・ 事務局より、議事概要(案)について提示があり、内容確認の上、コメントがあれば本日午前中に事務局まで伝えることとした。

3. プラントの状況について

- ・ 1～3号機の原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、約 25℃～約 45℃(12/24 現在)である。(東電)
- ・ 格納容器内圧力や格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについては有意な変動はなく、総合的に冷温停止状態を維持していると判断している。(東電)
- ・ なお、12/7 より1号機S/Cへの窒素封入を再開し、S/C内の残留水素を窒素にて置換していることから、1号機PCV内水素濃度が上昇している。(東電)
- ・ また、12/17 より効率的な冷却のため2号機、3号機の注水流量をそれぞれ 0.5m³/h 程度減らし、現在温度上昇傾向を監視中。(東電)

4. 個別の計画毎の検討・実施状況

- ・ 東京電力より、これまでの一ヶ月の動きと今後一ヶ月の予定について、「中長期ロードマップ 進捗状況(概要版)」並びに以下の各資料に基づき説明があった。
 - ① 2号機TIP案内管の活用に向けた検討状況について
 - ② 多核種除去設備 HIC落下時健全性評価の状況について

- ③ 発電所敷地境界線量低減 12月時点の状況報告
- ④ 港湾内海水中の放射性物質濃度低減 調査結果及び今後の対応について
- ⑤ 建屋からの気体状の放射性物質の放出について<参考>
- ⑥ 3号機原子炉建屋上部瓦礫撤去工事 水没した鉄骨がれき撤去について
- ⑦ 2号機原子炉建屋オペレーティングフロアのガンマカメラによる調査について
- ⑧ 2号機ベント管下部周辺調査の途中経過及び今後の予定について

- ・ 主なコメントは以下の通り

<全般>

- ・ 本日のご指摘、これまでの取組を踏まえて特に以下の3点に留意して取り組んでいく。(相澤副社長)
 - ① 汚染水が増えるリスクの低減に向けて、多核種除去設備の運用開始を目指しているが、現在はHICの落下試験による健全性確認に時間を要している。時間軸も含め、整理した上でしっかり進めていきたい。
 - ② 多核種除去設備の運用に加えて、港湾内海水中の放射性物質濃度の低減、敷地境界の実効線量 1mSv/年の達成についても年度末に向けて議論を重ね、中長期ロードマップに反映していきたい。
 - ③ セミナー、ワークショップ、タスク等を実施しているが、プロセスが上手く機能していない点がある。国内外の技術をできるだけ吸収し、現場に反映していく取り組みを早急に実現したいと考えているので引き続きご指導賜りたい。

<多核種除去設備の設置について>

- ・ 多核種除去設備の運用に向けて、HICの補強等の追加対策に加えて、更なる安全対策(金属製容器の設計)を検討することだが、早め早めの検討をお願いしたい。(中西委員)
- ・ 約 20 万 t の汚染水を構内に保管していることに鑑み、多核種除去設備を早く運用して汚染水を減らさなければならないということは共通認識として持っている。HICの対応については、可能な限り早めの検討を実施する。(東電)

<港湾内海水中の放射性物質濃度の低減について>

- ・ 港湾内海水中の放射性物質濃度については、物量が膨大になるので低減には時間が掛かる。ストロンチウムの除去についてよく検討して頂きたい。(井上顧問)
- ・ 国内の技術で、水中に沈めて遠隔操作で作業可能な水中バックホウというものがある。放射性物質の除去に向けてこのような技術の調査も検討頂きたい。(浅間教授)
- ・ 電中研としても、放射性物質濃度が下がらない原因について、これまで放出のメカニズムを中心に検討してきた。地下水までサンプリングしたが、放出源の特定に至っていない。今後は、放射性物質を除去するための吸着材等についても合わせて検討していく。(横山常務)
- ・ 中長期ロードマップで設定した9月までに港湾内海水中の放射性物質濃度を告示濃度未満にするという目標が達成されていない。今後どういうタイミングでどこまで達成することを目指して取り組むのかスケジュールを明確にして頂きたい。(中西委員)

<2号機ベント管下部周辺調査について>

- ・ ロボットについては、十分な安全性確認を実施した上で実機に投入しないと難しい。クイン

スはモックアップ等を実施して、どういう状況で何が起こるのかについて入念に確認していた。4足歩行のロボットは専門家が見ても難しい。導入時に遠隔技術タスクフォース等の場でアドバイスをする機会があったらと思う。プロセスが良くなかった。この様なシステムを導入するには、何らかの貢献をしたいので連絡を頂きたい。遠隔技術タスクフォースで改善点を議論した上で、実機に適用して頂きたい。(浅間教授)

- ・ 今後、遠隔技術タスクフォースでも議論しアドバイスを頂きたい。(東芝、東電)

5. その他

<福島ワークショップ(第2回)の開催について>

- ・ 福島ワークショップが開催されたが、地元企業は機器開発への参画に強い意志を示している。現在は、プラントメーカー3社が中心となり、研究開発を進めているが、国内外の叡智を活用するという意味でも、地元の協力を頂きながら進めることが重要である。(浅間教授)
- ・ 福島ワークショップにはプラントメーカーも参画している。機器開発のみではなく、実際の工事の実施についても、東電とも相談の上、地元の協力も頂きながら進めていきたい。(日立)

以上